

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和)

事業所番号	0670700939		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-1		
自己評価作成日	平成23年 11月 7日	開設年月日	平成18年 1月 17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの「人生」を大切に、思いを尊重し、毎日安全で安心して生活できるようお手伝いさせて頂いております。地域行事に参加したり積極的にレクリエーションを企画し、様々な場面から意欲を引き出し、楽しんで頂けるよう心がけております。敷地内は面積も広く、緑や草花が豊富に育ち、毎日のんびりできる環境豊かな施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の筆頭に「和やかな心を持ってサービスします」掲げ、ユニット名も「和」、「心」とし、職員は利用者や家族の話に耳を傾け押し付けにならないよう声掛けし、寄り添いながら利用者一人ひとりが「和やかな心」で生活が出来るよう努力している。昨年の目標達成計画に従い鍵を掛けないで過ごせる工夫等、前向きにサービスの向上に向け努力している。第二の理念「常に目的意識をもって努力します」を大切に課題解決に積極的に努力している事業所です。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	行政書士協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 23 年 11 月 30 日	評価結果決定日	平成 23 年 12 月 16 日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に信頼される施設を目指すことを理念に掲げ施設内に掲示している。	事業所の理念を職員が見やすい場所に掲示すると共に、ミーティング等で話し合い理念の共有に努めている。管理者等は、折に触れ職員の理念に添ったケアができていないか確認し注意している。職員はそれぞれ理念を理解し、利用者の意向を聞き押し付けにならないよう和やかな心をもって日々のケアに努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域行事に賛同し、入居者の方を出来るだけ参加できるようにしている。	町内会に加入し、地域の文化祭やお祭り等に参加している。また、地域の子供会やボランティア等の協力を得ていると共に、地域の認知症サポーター研修への講師派遣等の協力を行っている。職員も地域の信頼される施設を目指し、行事参加時や買い物、散歩の際には近隣の住民に挨拶を忘れないよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回、広報を発行し、運営推進会議などを通じて施設の様子や行事などを地域の皆さんにお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、会議を開催して入居者の状況を報告し、参加者より助言をいただき、それをもとに検討し向上に活かしている。	運営推進会議では事業所の取組や状況報告のほか、外部評価や目標達成計画等説明が行われている。事業所の抱えている問題点や困難事例等に意見をいただいている。会議の内容はミーティング等により職員に報告し共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月一回介護相談員の方が来荘され、入居者の方に関わっていただいている。また、市町村の担当の方が運営推進会議に参加しており、情報交換している。	毎月介護相談員の来所があり、利用者の意見等いただいている。運営推進会議に市職員も参加いただき事業所の状況等報告すると共に、日ごろから個別の問題点や、制度上の疑問点などアドバイスいただき協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間帯を除き、日中は常に開錠にし、入居者が自由に屋外へ出られるように配慮に努めている。	昨年の目標達成計画に従い身体拘束委員会を設け身体拘束を行わないための工夫やその原因等検証を始めている。また、全体会議の中で身体拘束について勉強会を行い、職員に周知を図っている。職員は禁止となる具体的な行為やその弊害を理解し、見守りを重視することで安全を確保し安易な抑制を行わないよう努め、鍵をかけずに過ごせる工夫を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等へ参加し、それを参考にし、防止に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弊荘でも後見制度を利用している入居者がいるので、職員は研修に参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明をし、疑問点が無いか確認している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当窓口がある事を家族に周知しており、相談できるようになっている。入居者の悩みも聴いている。	介護相談員を通して、または、アンケートを用いて利用者や家族が意見や要望を表せる機会を作っている。職員は家族が面会や通院の際など意見や要望を積極的に聞くように努力している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議において職員の意見を聞く機会を設け反映するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し資格手当を設け、給与に反映し環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに合った研修の機会を確保し、外部研修で学んだ事を内部研修に活かすように努めている。	感染症や虐待防止、認知症の研修等外部研修に派遣している。毎月行われる全体会議では、外部研修受講者による伝達研修や、勉強会等が行われている。	職員にある程度責任をもたせ、再アセスメント、モニタリング、計画の作成等一連の流れに役割を与え、管理者や計画作成者が検証・指導し、暮らし方の意向の把握や生活の支援等、働きながら職員各々のケアの向上に役立てる仕組みの検討に期待したい。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム協会の研修及び庄内連絡会の研修などにも積極的に参加している。	交換研修へ職員の派遣や受け入れ、職員と利用者が参加する交流会等同業者との交流の機会を確保している。交換研修では、他の事業所のアクティビティ等を参考にサービスの向上に繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までに生活されてきた環境や様子などの記録を踏まえ言葉掛けに注意しながら要望などに耳を傾けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や通院に来られた時は家族と会話するようにして要望、希望など聞くようにしている。月に一度居担から生活の状況を紙面で報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本氏、家族と担当職員、管理者、ケアマネで話し合った支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方が出来ることを見つけ、職員も一緒に楽しみながら行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から外出、外泊に連れていってもらい。通院時は家族が対応してくれ、その際、情報も伝えている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の知人など、面会に来ていただいている。親戚の方が通院対応している入居者もいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションにも気を配り、より良い関係が築けるよう間に入り支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所中の写真を送ったり、面会に行き、状況を把握している。相談事などがある場合、必要に応じ支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方などは、本人、家族の意向を取り入れながら対応している。問題が生じた場合も、その人の立場に立って対応している。	普段の係わりの中で利用者から暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は生活歴を家族から聞きながら本人本位に検討している。	職員等が日々の関りの中から把握した様々な情報を統一した書式に残し、共有できるような仕組みの検討を期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当事業所、家族から情報を得て、一人一人の状況の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った仕事をしてもらったり、体操、歌などリラックス出来る環境作りをしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット毎にケース会議を行い、問題点の解決に努め、現状と相違がある場合、計画の見直しも考慮している。	3か月ごとモニタリングと職員とのケース会議の中で話し合い計画の見直しを行っている。また、状況の変化時はその都度見直しを行っている。	事業所で提供している様々なサービスを計画に位置付け、詳細な計画を作成し、それを基にモニタリングを行い検証し、必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映した計画の作成に期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等、報告し合い、ケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を行っている。地域の子供会や一般ボランティアの協力を得ている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診時は毎日の血圧、体温、様子などを記した用紙を医師に渡し、家族への情報提供と医師から指示をもらい、家族、職員で情報を共有している。	原則通院は家族にお願いしているが、その際には利用者の状況を記した文書を提供し、かかりつけ医に情報を提供し、受診結果は家族から職員が聞き取りケース記録に残し、情報の共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	利用者の状況、状態報告相談し、その指示に従い健康管理に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>係りつけ医、協力医療機関と相談、情報交換できる関係作りを行っている。又、入院した際は病院関係者と常に連携を密にしている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に方針を説明し、対応している。重度化した場合も本人、家族等話し合い、今後の支援に協力している。</p>	<p>入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明し、状況の変化時等その都度話し合いを行い繰り返しの話し合いと段階的な合意に向け努力している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルで初期対応を把握しているが、応急手当や、初期対応の定期的な訓練はしていない。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月一回の自主防災訓練を実施、年二回消防署、地域消防団に協力を得て訓練実施。</p>	<p>火災や地震、夜間対応と毎月防災訓練を行っている。年2回は消防署の協力を得ると共に、地域住民の参加も得られている。震災後の経験を活かし、今後はマニュアルや備品、備蓄等の検討も計画されている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>朝のミーティングで情報確認し、職員一人一人に対して言葉掛けや対応について上司が指導している。職員会議等でも話し合いの場を設けている。</p>	<p>利用者それぞれの人生や思いを大切に感謝の心で接するよう努めている。普段から職員同士で注意し合いまたは職員会議で話し合う等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努力している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の希望を引き出す声掛けをし、希望があれば外出、買い物、通院などの支援を提供している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きながら個々平等になるように心がけ、利用者に合った過ごし方を考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人の希望に合わせ、出張サービスを利用し、その日の服装も本人の意向に合わせている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備(皮むき、千切り、根とり)等、手伝ってもらっている。	3食職員が調理し、能力や希望に応じて利用者が準備や調理、片付け等一緒に行っている。調理の過程に利用者にも参加いただき食事が楽しみになるよう工夫している。献立は職員が作っているが、利用者の好みを取り入れるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回体重測定をしている。一人一人の状況に合わせて食事量、水分量は看護師の指示をもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けをして、必要に応じて口腔ケアの介助を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決めたり、声掛け、入居者の訴えで、必要に応じて介助を行っている。排泄表を記入し、排泄パターンを把握するようにしている。	排泄パターンを把握し適時の声かけによりトイレでの排泄に向け努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、できるだけ乳製品や果物を取り入れている。排泄表の状況に合わせて下剤を調整する。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日が決まっている為、一人一人の希望に沿った入浴ができていない。	入浴剤等変わり湯を取り入れながら入浴を楽しむことができるよう努めている。他方のユニットでは曜日や時間帯について利用者の希望に添うよう柔軟に対応を始めている。	事業所全体が利用者の希望に合わせてくれるよう柔軟な対応を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人との会話や希望を聞きながら、その都度対応する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報で効用、副作用を確認し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、縫い物等、入居者の得意な事を活かせるようにしている。カラオケやレクリエーションも楽しめるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月施設全体行事があり、又、地域の催し物に参加したり見学したりしている。外出日を設け、体調を考慮しながら天気の良い時は散歩したり、ドライブにも出かける支援をしている。	行事としての外出や利用者それぞれの希望に応じた買い物、気分転換を兼ねた散歩等戸外に出かける機会は確保されている。行事の際には地域の民生委員のボランティアの協力も得られている。また、家族の協力を得て外泊等の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買い物時、本人の希望を聞きながら買い物ができるよう支援している。本人の希望に合わせて、お金を所持する事も可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話する事が出来る。年賀状も出している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはカラオケ、椅子、電子ピアノがあり、レクリエーションを楽しむ空間がある。テレビを見たり、塗り絵をしたり、縫い物をしたり自由に過ごせる空間がある。	共用空間は床暖房で温度や湿度の管理がなされている。居間、食堂は畳とフローリング、ソファに椅子等思いおもいに過ごせる空間があり、利用者の作品等の飾りつけや、馴染みの家具等の配置があり、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには気の合う入居者同士で楽しく過ごせる場所がある。食堂にもソファがあり、お茶の時間に談笑する場所になっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、椅子等を居室に持ち込む事が出来る。家族の写真や花を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。本人が色塗りしたカレンダーも貼っている。	利用者の居室は、使い慣れた物や馴染みの物の持ち込みがありそれぞれが思いおもいに配置や飾りつけがされており居心地よく過ごせる工夫がなされてる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面場の棚やタオル掛け等に名前をつけ、分かりやすいようにしている。下駄箱にも名前をつけて対応している。			